

鳥取県母子保健対策協議会 母子保健対策専門委員会

- 日 時 令和8年2月12日(木) 午後2時～午後2時50分
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 21人
〈鳥取県健康会館〉
清水会長、村江協議会長、遠藤、岡田克・高橋各委員
鳥取県子ども家庭部・家庭支援課：岡田課長補佐
鳥取県健康対策協議会事務局：岡本事務局長、田中尚・田中貴両係長
岩垣主任、廣瀬主事
〈鳥取県中部医師会館〉
井奥・橋田・花木・松田各委員
〈鳥取県西部医師会館〉
難波委員長・井庭・岡田隆・河津・寺岡・前垣各委員

【概要】

・令和6年出生者数は3,092人で前年より171人減少した。合計特殊出生率は1.43%で前

年と比べて0.01ポイント減少した。

・1歳6か月児健診の受診者数は3,490人、受診率は98.4%、3歳児健診の受診者数は

3,654人、受診率は98.4%だった。未受診者に対してはどの市町村も再通知、受診勧奨の電話、訪問指導などの対応をしている。

- ・産後健康診査の結果、支援の必要性「有」となったケースは産後2週目で461件、4週目で442件あった。産婦人科医も加えた市町村での協議の場を増やし、サポート体制の強化を望む声があった。
- ・人工妊娠中絶実施率は6.0%で前年と比べて0.5ポイント減少したが、依然として全国平均を上回っており全国ワースト9位であった。
- ・ガスリー検査による精密検査対象者は14人（前年6人）だった。次年度より拡大マスキング検査結果も報告される。
- ・鳥取県乳幼児健康診査マニュアル（1か月～3歳児健診）および5歳児健康診査マニュアルの改訂に向けて、こども家庭庁から示された通知の内容を踏まえ、市町村の意見も伺いながら小委員会において進めていく。

挨拶（要旨）

〈清水会長〉

母子保健を取り巻く課題は多様化しており、5歳児健診の推進など、切れ目のない支援体制の強化が求められている。これまでの成果を踏まえつつ、より安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりに向け議論を深めていただきたい。引き続き専門的な立場からご助言ご協力をお願いしたい。

〈村江部会長〉

産婦人科としては妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援を目指し行政の指導のもと取り組んでいる。妊娠前からのプレコンセプションケア、包括支援センターへの相談、出産後は産後ケア、メンタルヘルス対策が重要である。母子保健は生涯の健康の基礎であり次の世代を育てる基礎であ

る。本会議が妊娠、出産、育児に前向きに取り組める環境づくりの一助となることを期待している。

〈難波委員長〉

母子保健分野では従来から取り組んでいる問題とともに、新たに国から示された5歳児健診、1歳児健診の在り方について議論を急がないといけない。委員の皆様からのご意見、ご指導を賜りたい。

報告事項

1. 母子保健指標推移について：

岡田県家庭支援課長補佐

鳥取県と全国を比較した母子保健指標推移によると、令和6年出生者数は3,092人で前年より171人減少した。合計特殊出生率は1.43%で前年と比べて0.01ポイント減少した。

乳児死亡数は5人、乳児死亡率は1.6%（全国1.8%）であった。内訳は新生児死亡が3人、早期新生児死亡が2人であった。周産期死亡数は9人で前年と同数、周産期死亡率は2.9%（全国3.3%）であった。

2. 令和6年度市町村母子保健事業実施状況について：岡田県家庭支援課長補佐

妊娠届出数（地域保健・健康増進事業報告）は3,070件であった。満11週以内の届出は2,802件で、全体の91.3%（前年91.2%）、満12～19週の届出は240件で全体の7.8%（前年7.9%）、満28週以降の届出は9件、分娩後の届出は1件であった。妊婦訪問指導の実人員は128人、未熟児訪問指導の実人員は150人であった。

・乳幼児健康診査受診状況

1歳6か月児健診：対象者数3,545人、受診者数3,490人で受診率は98.4%だった。健診の結果、要精密者は126人、精密検査受診者は102人で受診率は81.0%であった。受診率の低い市もあることから、引き続き働きかけていく。

3歳児健診：対象者数3,714人、受診者数は3,654人、受診率は98.4%だった。健診の結果、要精密

者は595人、精密検査受診者は480人で受診率は80.7%であった。未受診者に対してはどの市町村も再通知、受診勧奨の電話、訪問指導などの対応をしている。

3歳児健診における視力検査：要精密対象者は394人、受診者数は333人、受診率84.5%だった。屈折異常をスクリーニングする機器（スポットビジョンスクリーナー）の導入が増えてきている。精密検査の結果、異常なし13人、助言指導4人、追跡観察197人、要精密30人、要治療88人、その他1人であった。委員から、機器を使用している市町村と使用していない市町村により結果差は出ているかとの質問に際し、各市町村に確認をしたいとのことだった。

・その他、市町村母子保健事業に関して以下の報告があった。

① 3歳児健診で親が「育てにくさ」を感じている児の受診結果

「いつもそう思う」と回答した人は41人で、受診者の1.1%（前年1.3%）であった。そのうち1歳6か月児健診で指摘事項なしの者は21人、何らかの指摘があった者は15人であった。

② 5歳児健診（発達相談）実施結果

鳥取市、倉吉市、境港市が実施する発達相談（健康相談）は、相談者数計74人、うち要精検は28人（37.8%）であった。

米子市と15町村が実施する5歳児健康診査は、対象者数653人、受診者644人（受診率98.6%）、要精検は82人（12.7%）であった。委員から、今後5歳児健診が二段階方式となった場合、対象者数はピックアップされた数ではなく質問票に回答した全数を入れてほしいとの要望があった。

③ 妊娠届出時に妊婦の喫煙「有り」は52人（1.68%）で前年比マイナス0.03%だった。喫煙「無し」と回答した者のうち妊娠を機に禁煙した者は73人だった。同居家族の喫煙状況は「喫煙有り」が989人（31.9%）だった。

④ 産後健康診査結果

産後2週目：受診者数2,756人のうち、異常なし2,189人、経過観察559人、要精検3人、要治療5人（精神科への紹介数は2件）であった。エジンバラ産後うつ病質問票点数が9点以上となった方は304名（11.0%）で前年比マイナス1.3%だった。

産後4週目：受診者数2,882人のうち、異常なし2,417人、経過観察454人、要精検4人、要治療7人（精神科への紹介数は2件）であった。エジンバラ産後うつ病質問票点数が9点以上となった方は229名（7.9%）で前年比プラス1.0%だった。

委員より、産後ケアについては各市町村とも様々な事業に取り組んでいただいているが、支援の必要性「有」となったケースは産後2週目で461件、4週目で442件ある。産婦人科医も加えた市町村での協議の場を増やしていただき、サポート体制を強化してほしいとの意見があった。

3. その他

○人工妊娠中絶の推移について：

岡田県家庭支援課長補佐

人工妊娠中絶実施率は6.0%（全国5.5%）で前年と比べて0.5ポイント減少したが依然として全国平均を上回り、全国ワースト9位だった。20歳未満の実施率は5.3%（全国4.1%）で前年と比べて0.6ポイント増加し依然として高い（ワースト4位）。委員より、県教育委員会など教育関係機関へも働きかけをしてほしいとの意見があった。

○先天性代謝異常検査及び精密検査の状況：

岡田県家庭支援課長補佐

ガスリー検査による精密検査対象者は14人（前年6人）だった。精密検査の結果、先天性甲状腺機能低下症4人、先天性甲状腺機能低下症の疑い2人、潜在性甲状腺機能低下症2人、一過性高TSH血症の疑い1人、古典的フェニルケトン症1人などであった。

タンデムマス法検査による精密検査対象者は0

人（前年1人）だった。なお、次年度より拡大マ
スクリーニング検査結果も報告される。

○新生児聴覚検査結果実施状況：

岡田県家庭支援課長補佐

県内の分娩取扱産科施設14施設で実施され、実
施児数は3,598人、実施率は99.75%であった。そ
のうち確定診断を受けた「きこえない・きこえに
くい」子どもは8人（両側難聴1人、一側難聴7
人）であった。

精密検査実施件数は15件で、NICU入院児の
「きこえない・きこえにくい」子どもは一側難聴
が2人、両側難聴が1人（軽度）だった。NICU
入院児を除いた「きこえない・きこえにくい」子
どもは一側難聴が5人であった。

○鳥取県乳幼児健康診査マニュアルおよび5歳児
健康診査マニュアルの改訂について：

難波委員長、前垣委員および岡田県家庭支援課
長補佐

平成27年に作成した鳥取県乳幼児健康診査マ
ニュアル（1か月～3歳児健診）の神経診察項目
や乳児の身体診察項目などについて、小委員会
で改訂を進めている。このうち1か月健診につ
いてはこども家庭庁から令和7年11月25日付でマ
ニュアル改訂等の通知がなされているが、今回
の本県の改訂には反映させず、次年度以降に検
討していく予定である。

5歳児健診については、こども家庭庁から二
段階方式を含めた改訂の通知があったことを受
け、本県でも国のマニュアルに合わせて改訂を
行うこととしている。本県は以前より5歳児健
診を導入してきたが、国からの通知に沿って、
問診など市町村保健師の意見も伺いながら各
市町村でできるかたち（悉皆と二段階）を前
垣委員を中心に検討し

ていく。医師の診察部分は神経発達の診療に
慣れていない一般小児科、内科、総合診療医
の先生もできることを見越した案が示されて
いる。

なお、こども家庭庁のホームページに5歳
児健診ポータルサイトが開設されている。

協議事項

1. 県内の乳幼児健診における健診体制について：

岡田県家庭支援課長補佐

昨年度の委員会および小委員会において、中
長期的な持続可能性を念頭に置いた乳幼児健
診体制の整備について今後も県・医師会・市
町村・医療従事者が協調して取り組むこと
について了解をいただいている。今後も各
地区の小児科医会などでも説明をさせて
もらい、意見を伺いたい。引き続きご協
力をお願いしたい。

○実施体制について

・市町村の乳幼児健診体制および健診医
（協力医含む）の一覧表の作成。

○実施方法について

- ・3歳児健診：小児科医のほか内科医の先生
方にも継続的に協力をお願いしていく。
- ・5歳児健診：国において悉皆方式だけでなく
二段階方式（医師の関与のもと発達等に課
題がある児を対象に医師が診察する健診）
の実施も対象に含まれたことから改めて本
県の体制整備を検討していく。

○スキルアップ研修について

- ・5歳児健診の診察方法について小児科医
および内科医への研修会とあわせて、関
係機関の役割は保健師・保育士・福祉
専門職のための人材育成を目的とした
研修会を開催する。